

感 染 症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第39週)

(令和8年9月21日～令和8年9月27日)

令和8年10月1日

定点報告(上段: 定点当たり／下段: 報告数)、全数報告(報告数)		2026年					2025年	2024年
区 分	疾 病 名	36週	37週	38週	39週	合計	合計	合計
定点報告	インフルエンザ	2.00	4.00	4.67	6.00	—	—	—
		6	12	14	18	637	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	8.33	4.00	6.33	2.00	—	—	—
		25	12	19	6	234	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	31	156	309
	咽頭結膜熱	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	9	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	1.50	0.50	—	—	—	—
		2	3	1	0	119	243	657
	感染性胃腸炎	1.00	0.50	1.00	1.00	—	—	—
		2	1	2	2	136	430	610
	水痘	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	8	10	6
	手足口病	2.50	3.00	1.00	—	—	—	—
		5	6	2	0	133	15	952
	伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	0.50	—	—	—	—	—	—
		1	0	0	0	20	59	182
	ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	16	4	19
	流行性耳下腺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	1	10	13
	急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	—	—	—	1.00	—	—	—
		0	0	0	1	2	2	9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	4	16	1
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	1.00	1.00	4.00	—	—	—	—
		1	1	4	0	26	42	16
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	—	—	—	1.00	—	—	—
		0	0	0	1	9	39	19
	新型コロナウイルス感染症(入院)	—	—	2.00	—	—	—	—
		0	0	2	0	24	56	120
	急性呼吸器感染症(ARI)	42.00	51.67	63.67	45.00	—	—	—
		126	155	191	135	6,578	8849	—

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザの 流行 が見られます。
--------	----------------------------

インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して増加しました。 県内では第35週から流行シーズンに入り、A型が流行しています。県内の多くの地域で報告数が多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。手洗いの徹底や、冷房使用時にも適度な換気を行う等、基本的な感染対策を心がけるとともに、ワクチンの早期接種を検討しましょう。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して減少しました。 前週より減少していますが、県内では報告数がやや多い状況です。基本的な感染対策を徹底し、感染に注意しましょう。
RSウイルス感染症	複数の地域で報告が続いています。 RSウイルス感染症は、RSウイルスによる呼吸器感染症です。飛沫感染や接触感染により感染し、4-6 日の潜伏期間の後、風邪様症状等、様々な症状が生じます。特に1 歳未満の乳幼児の初感染では気管支炎、肺炎等症状が重くなる場合があります。インフルエンザと同様基本的な感染対策が重要であり重症化予防には妊婦や60 歳以上を対象としたワクチンが有効です。
クラミジア肺炎	本県で1例報告がありました。 クラミジア肺炎は細菌の一種であるクラミジアに感染することで生じる呼吸器疾患で、病原体の種類によって飛沫感染や出産時の産道感染が感染経路となります。上気道炎、肺炎等が生じ、新生児や高齢者、基礎疾患を持つ方は重症化する場合があります。予防には、手洗い等の基本的な感染対策が有効です。また、新生児肺炎の場合、妊婦のクラミジア感染の早期探知が重要です。
結核	本県で1例報告がありました。 昨年と同様、高齢者や外国出生者が多くを占めている状況です。外国人労働者を多く雇用する事業所や高齢者施設は、既存の感染対策に加え、結核対策としての定期健康診断を実施し、早期発見に努めましょう。

インフルエンザの報告数が増加しています。感染の拡大を防ぐため基本的な感染対策の徹底をお願いします。

- ・咳やくしゃみ等の症状があるときは、マスクを着用したり、鼻や口をティッシュ等で覆うなど、他の人への感染拡大防止に努めましょう。
- ・流水・石けんによる手洗いは手指など体についたウイルスを除去するために有効な方法です。こまめな手洗いに努めましょう。
- ・室内ではこまめに換気をしましょう。窓開けによる換気は、対角線上にあるドアや窓を2か所開放すると効果的な換気ができます。
- ・普段と体調が異なる場合には、出勤や登校を控えるなどの体調管理に留意してください。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第39号